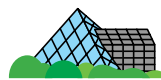


芸術と 戯れる空間 モエレ沼公園



189ヘクタールを擁するモエレ沼公園。世界的彫刻家、イサム・ノグチが設計し、市民の憩いの場として広く利用されています。この公園の拠点施設として、ガラスのピラミッドがこのほどオープンしました。その施設の魅力をお伝えするとともに、モエレ沼公園の見どころを紹介します。



ごみ処理場跡地が 公園として 生まれ変わる

モエレの語源は、アイヌ語で流れの遅い川という意味の「モイレ・ペツ」。モエレ沼は、豊平川の度重なる洪水やはんらんのできた河跡湖と考えられています。

こうした沼として水の要素を持ち合わせるモエレ沼公園は、札幌の市街地を公園や緑地で包み込もうという構想の中で計画されました。また、この公園は、ごみ処理場として廃棄

物を埋め立てた後、公園造成を行うという独特な事業として整備が始まったのです。ごみの搬入が行われたのは、昭和五十四年度から平成二年度までの間。約二百七十万トンのごみが公園の内陸部全域に埋め立てられていて、最も厚いところで八メートルにもなっています。

公園の基盤造成工事が始まったのが、昭和五十七年。その後、植栽基盤や外周園路などの造成が行われていた折、イサム・ノグチとの出会いが、モエレ沼公園に「彫刻」としての新たな命を吹き込みました。